

# めぐみイエス・キリスト教会

2019年9月8日(日)第二主日礼拝  
週報「通算第472号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年9月8日 第二主日礼拝  
第一礼拝 午前10時 第二礼拝午後6時  
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

### ◎礼拝プログラム

- 【前奏祈祷】
- 【賛美Ⅰ】 新聖歌341 「恐れなく近寄れ」 p. 542
- 【交読文】 No.41 詩篇第127篇 p. 912
- 【賛美Ⅱ】 新聖歌467 「世の終わりのラッパ」 p. 752
- 【使徒信条】
- 【主の祈り】
- 【先週説教】
- 【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.16 「神の都へ」
- 【聖書朗読】 ヨハネの福音書19章12節～16節(新約p. 201下段)
- 【祈 禱】
- 【説 教】 《カイザルのほかには》 鈴木 竜実 牧師
- 【聖 餐 式】
- 【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235
- 【平和祈り】
- 【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85
- 【祝祷後奏】

#### ●ポイント1. ユダヤ指導者たちの訴えの内容とは？

※ルカの福音書23章1節～5節「総督ポンテオ・ピラトのもとへ」(新約p.151)

23:1 そこで彼らは全員が立ち上がり、イエスをピラトの下に連れて行った。

23:2 そしてイエスについて訴え始めた。彼らは言った。「この人はわが国民を惑わし、カイザルに税金を納めることを禁じ、自分は王キリストだと言っていることがわかりました。」

23:3 するとピラトはイエスに、「あなたは、ユダヤ人の王ですか」と尋ねた。イエスは答えて、「そのとおりです」と言われた。

23:4 ピラトは祭司長たちや群衆に。「この人には何の罪も見つからない」と言った。

23:5 しかし彼らはあくまで言い張って、「この人は、ガリラヤからここまで、ユダヤ全土で教えながら、この民を扇動しているのです」と言った。

### ●ポイント2. 「さあ、あなたがたの王です」 この言葉の意味は？

#### ※第 I サムエル記8章4節～5節「イスラエルの長老たちの要望」(旧約p.435)

8:5 彼に言った。「今や、あなたはお年を召され、あなたのご子息たちは、あなたの道を歩みません。どうか今、ほかのすべての国民のように、私たちをさばく王を立てて下さい。」

8:6 彼らが、「私たちをさばく王を与えて下さい。」と言ったとき、その言葉はサムエルの気に入らなかった。そこでサムエルは主に祈った。

#### ※第 I サムエル記8章19節～20節「長老たちの再度の要望」 (旧約p.436)

8:19 それでもこの民は、サムエルの言うことを聞こうとしなかった。そして言った。「いや。どうしても、私たちの上には王がいなくてはなりません。」

8:20 私たちも、他のすべての国民のようになり、私たちの王が私たちをさばき、王が私たちの先に立って出陣し、私たちの戦いを戦ってくれるでしょう。」

### ●ポイント3. 「カイザルのほかには～」 この言葉のもたらしたことは？

#### ※ルカの福音書21章20節～24節「聖都エルサレム滅亡の予言」(新約p.147)

21:20 「しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、そのときには、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。」

21:21 そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ちのきなさい。いなかにいる者たちは、都にはいつてはいけません。

21:22 これは、書かれているすべてのことが成就する報復の日だからです。

21:23 その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。この地に大きな苦難が臨み、この民に御怒りが臨むからです。

21:24 人々は、剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれ、異邦人の時の終わるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。」

#### ※黙示録19章5節～9節「使徒ヨハネが見聞きした幻から」(新約p.457上段)

## ◎先週のメッセージの概要【権威とは？】

《イエス様がピラトの所に連れて来られたのは、午前6時頃となります。その後すぐに国主ヘロデ・アンティパスの所に送られ、またピラトの下に戻されたのは、午前7時頃で、むち打たれ、そして今、群衆の前に立たされています。「聞きなさい。あの人を連れ出して来ます。あの人に何の罪も見られないということ、あなたがたに知らせる為です。私はこの人には罪を認めません。」「この人は自分を神の子としたのですから、律法によれば、死に当たります。」「自分を神の子とした」とは、数時間前の大祭司カヤパの尋問のことです。「私は、生ける神によって、あなたに命じます。あなたは神の子キリストなのか、どうか。その答えを言いなさい。」「あなたの言うとおりです。」

彼らは「自分を神の子とした」と主張しますが、「した」のではなく、真に「神の御子」であられるのです。それを聞いたピラトは恐れ、イエス様を群衆からは見えない所に連れ出し、そして質問します。「あなたはどこの人ですか。」

この質問には、イエス様は答えません。マタイの福音書によれば、『そしてナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちを通して「この方はナザレ人と呼ばれる。」と言われた事が成就する為であった。』と書かれています。

「ナザレのイエス」、これが「救い主」の名前なのです。

「あなたは私に話さないのですか。私にはあなたを釈放する権威があり、また十字架につける権威があることを、知らないのですか。」ピラトは続けます。

この質問に対して、イエス様は「もしそれが上から与えられているのでなかったら、あなたには私に対して何の権威もありません。」と明言されるのです。

すべての権威は、父なる神様が与えられたものなのです。いや、この世界は御子によって、御子の為に創造されたのですから、ピラトをローマ総督として選ばれ、その権威を与えられたのは、主ご自身と言うこととなります。

それだからこそ、使徒パウロは、このように勧めています。

「人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。」と。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は9月15日です。午前礼拝は中止します。午後礼拝(6時)だけとなります。鈴木牧師は、川口ビジョン教会で、メッセージと特別賛美の奉仕を担当します。また次回「聖書の学びと祈り会」は、9月11日(水)に行ないます。